

【目指す姿】

ふるさとを好きになり、大切にする子

	評価項目（成果） 取組（教育・運営活動）	評価基準	1学期		2学期	
			評価	分析及び考察	評価	分析及び考察
成果	○地域の様々な文化的資源とかかかわる活動をとおして、ふるさとを好きになり、大切にしていこうとする児童が85％以上になる。	・児童アンケート「生活科・総合的な学習の時間などから、浦佐のよいところを言えますか。」 ・保護者アンケート「地域のよいところを言える。」 →両方とも全体の85％以上達成のときA評価	児童 65.1 % 保護者 69.4 % (職員) 70.6 %	B ・1学期は地域を「知る」段階であったためか、達成率は高くなかった。2学期以降、文化的資源や自然との関わりをさらに増やし、活動を深めていけるよう工夫する。 ・学期を追うごとに達成率が上がっていくように、2学期以降の活動を通して、児童が地域のよさを更に知り、ふるさとを大切にしようという意識を高められるよう努める。	児童 69.7 % 保護者 73.8 % (職員) 85.7 %	B ・学習発表会で、複数の学年が生活科や総合的な学習の時間の取組の成果を発表した。 ・児童、保護者、職員とも評価が上がった。どの学年もたくさんの活動を設定したことで、地域のよさに目を向けることができた。
	○異なる文化をもつ人々とのかかわりにより、相手の思いを受け止めたり、多様な考えや文化があることに気付いたりする児童が85％以上になる。	・児童アンケート「さまざまな考えや文化があることに気が付きましたか。」 ・保護者アンケート「多様な考えや文化に気が付いている。」 →両方とも全体の85％以上達成のときA評価	児童 79.4 % 保護者 75 % (職員) 66.7 %	B ・国際科の活動では、児童の実態に合わせて単元の内容を考えるなど、工夫して活動を設定することができた。 ・「自国の文化や伝統のよさ」を感じる活動を設定するのは容易ではないが、様々な教科と関連付けて知ったり、感じたりできるよう活動を工夫していく。	児童 86.1 % 保護者 79.5 % (職員) 78.6 %	B ・留学生訪問では、国の紹介など、多くの児童が興味深く聞き入っていた。 ・外国籍児童と相互に文化などについて紹介しあう機会を計画的に実施する。(転入後1か月をめどに簡単な自己紹介ができるとよい)
	○地域（人、物、場所、出来事）とかかわる活動を学期に1回以上設定する。	A: 学期に1回以上実施 B: 実施していない	10／10学級	A ・各学年が地域とかかわる活動を計画的に実践した。 ・地域とかかわる活動や振り返りの場を設定することができた。	10／10学級	A ・どの学年も活動から学んだことを振り返ったり、まとめたりする場を設定することができた。
	○国際理解や外国籍児童・保護者との活動など、異なる文化とかかわる場を学期に1回以上設定する。	A: 学期に1回以上実施 B: 実施していない	5/10学級	B ・留学生訪問や外国籍児童とのかかわりを通して、学年によって外国の文化に触れることができた。 ・各学年で学期ごとに外国の文化に触れる機会を設定するなど、国際科や国際理解教育の活動を工夫する。	10/10学級	A ・留学生訪問や外国籍児童とのかかわりを通して、どの学年も外国の文化に触れることができた。 ・各学年が国際科や国際理解教育の活動を工夫することができた。
運営活動	○地域コーディネーター（地域づくり協議会等も含む）と連携した、職員研修を年に1回以上行う。（情報交換、共有など）	A: 年に1回以上実施 B: 実施していない	年間で評価			
	○人材バンク（地域住民、国際大学、外国籍児童の保護者など）の整備や資料の周知を行う。	具体的取組を記載 ・地域コーディネーターと連携することができた。各学年の活動に応じて、講師を紹介していただいたり、一緒に活動していただいたりした。	・各学年で事前に下見を行なったり、地域人材を活用したりすることができた。 ・人材バンクや指導計画を学期ごとに見直し、加除訂正していく。		・それぞれの学年が必要な下見、打ち合わせをしていた。	